

会 議 録

会議名	令和８年度第２回京田辺市学校教育審議会
日 時	令和８年８月２５日（火）午後６時００分から午後８時０５分まで
場 所	京田辺市役所３階 ３０５会議室
内 容	１ 開会 ２ 会長あいさつ ３ 普賢寺小学校の取組紹介 ４ 議事 （１）審議：普賢寺小学校の取組の良さや他でも取り入れるとよい取組について （２）説明：コミュニティ・スクールと地域学校協働活動について （３）説明：京田辺市の学校や地域の課題について （４）審議：京田辺市にコミュニティ・スクールを導入する意義について ５ その他
出席者	（委員）９名出席 沖田委員（会長）、小長谷委員（副会長）、磯田委員、川南委員、川寄委員、澤田委員、宮本委員、島谷委員、津熊委員（事務局） 古谷教育部長、芹澤教育指導監、栗山教育部副部長、平岡教育総務室担当課長、南部こども・学校サポート室総括指導主事、村山学校教育課長、早田社会教育課長、濱本教育総務室企画係長、鈴木再任用主査、太田教育総務室企画係主任、山盛教育総務室企画係主任
傍聴者	なし

●普賢寺小学校の取組紹介について

《校長より普賢寺小学校における学校運営協議会の取組みについて講演》

（質疑）

会 長： ありがとうございます。非常に興味深く、簡潔でわかりやすく、よく理解できました。ただいまの発表に関しまして、聞いておきたいことはございますか。

副会長： 地域コーディネーターはどのような役割を担っていたのでしょうか。年間計画の中で色々な事業がある中で、探究活動等を企画するときに地

域の資源をつないでいくという役割をイメージしますが、いかがでしょうか。

校 長： 2年前に、教頭先生等と話をした時に、本校の弱点はコーディネーターがいなかったことでした。そこで、去年から、1名の方に校長推薦で学校運営協議会に入ってもらい、企画立案の時から議論してもらい、地域をつなぐ動きをしていただいています。

副会長： 普賢寺地域外の市域全域にわたってコーディネートできる方、例えば、消防とか、警察とか、色々なお店があると思いますが、そういった役割もされているのでしょうか。

校 長： そこまではできていませんが、学校運営協議会の中にはそういったことができる方もいます。

会 長： 他にいかがでしょうか。

委 員： 普賢寺小学校は市内のどこからでも通学できる特認校制度をとっている学校ですが、地域の方だけではないことで、難しいことはありますか。

講 師： 地域外の方にもっと事業に来てもらわないといけないとおっしゃる方がいるので、ステークホルダーとしてより関わってもらえるよう改善していかないといけないと思っています。また、卒業時点の子どもたちに、普賢寺小学校はあなたのふるさとですか、大好きですかといったアンケートをすると、97%の子どもたちがはいと回答があります。お世話になってきて、自分たちの地域という意識になっています。

会 長： お話を聞かせていただいて、コミュニティ・スクールのイメージが非常に具体的なものになったと思います。本日はありがとうございました。

●議事

(1) 審議：普賢寺小学校の取組の良さや他でも取り入れるとよい取組について
《事務局から資料2を基に審議の流れを説明》

(審議)

出席委員が2つのチームに分かれて、テーマについて意見交換し、まとめたものを発表した。

Aチーム： 普賢寺小学校の取組はすごく魅力的な部分があり、また、子どもが学校や地域に愛着を持てるようになってきているという意見がありました。

そして、教師はどれくらい関わっているのかという意見があり、働き方改革も重要ということで、負担はやはりゼロではないというようなお話がありました。

あと、すごくいい取組みで大変魅力的ですが、学校の規模として、これが例えば 500 人～600 人の学校だったり、1,000 人の学校だったりすると、どういうふうに取り入れることができるのかという話になり、工夫や精査が必要であるということでした。

Bチーム： 普賢寺小学校のお話を聞いて思ったのは、やはり地域が本当に学校を愛している。また、学校も地域をすごく愛しており、お互いの思いが強いということを感じました。それが、本当にすごく魅力的なところだと思いました。特に特認校ということで、地元の方以外も通う中で、地域の方に協力していただいて、こういった活動ができることは、学校として大変魅力を持つことになり、また発信できているように思います。

また、地域が協力したいと思えるような教育活動をされているところがすごく魅力的だなと思いました。ただし、それを京田辺市内の他の学校に当てはめられるかということ、なかなか難しい部分がある。歴史が長い学校、歴史が浅い学校と色々ありますし、地域の思いもそれぞれで学校によって違います。どのように学校として地域のことを知って、また学校のことを知ってもらってそういうことができるのかで、変わってくると思います。

また、コミュニティ・スクールをすることの良さ、地域の活性化にもつながるといったことをうまく発信できるかというところが大事であり、難しいポイントでもあります。

あと、地域人材の発掘といったところもこれからの課題になってくると思います。

事務局： 所見がありましたら、お願いします。

校長： 小規模だからできるというご意見はわかります。全てに汎用できるものではないですけども、大きい学校ではできないからやめておこうというのではなく、今の自分の学校でできることを思いっきりやってみようと考えて取り組んでいます。

(2) 説明： コミュニティ・スクールと地域学校協働活動について
《事務局から資料 2 を基に説明》

(3) 説明：京田辺市の学校や地域の課題について

《事務局から資料3－1を基に説明》

(4) 審議：京田辺市にコミュニティ・スクールを導入する意義について

《事務局から資料2及び資料4を基に審議の流れを説明》

(審議)

出席委員が2つのチームに分かれて、テーマについて審議し、まとめたものを発表した。

Bチーム：　そもそも、保護者や地域の人は学校運営に参画したがるのかという疑問があり、ハードルが高いのではないかという意見がありました。最近では、PTA活動も、共働きの家庭が多く、夜に出ることができない方がいるので、今までのようなやり方では立ち回らないようになってきている。そこに地域の方も加わるとなると、色々な部分でハードルは高いと思いました。ただし、保護者はもちろん、地域の方も学校に無関心ということではないんです。学校がお願いしたら、気持ちよく引き受けていただけて、体験活動なんかもご協力いただける。決して、土壌がないわけではないと思います。

そして、学校も、今までつながりのある人とは話ができるが、一度切れてしまったり、異動してきた教師からするとなかなかつながりをつくるのは難しい面があります。そういったつながりが大事であることははっきりしており、その場をどこでつくるのかというと、このコミュニティ・スクールというものが大事な部分を担ってくるのかと思います。

ただし、地域の方も、いきなり来て、学校に意見を言うということはなかなかできません。まずは学校のことを知ってもらって、子どもの声を聞いてもらって、地域として、保護者として何ができるのかということ、まずは話し合ってもらう場がコミュニティ・スクールなのではかと思います。活動ありきではなく、子どものことについて議論する場を設けること自体が、大事な意義になってくると思います。そこから、どのような活動が生まれてくるかは先の話になります。

それを最初にするのはどこなのかということで、負担感が出てくるので、緩和する仕組みを考えていかないといけない。学校ばかりが主体となってしまうと、先細りしてしまう。コミュニティ・スクールという仕組みは大事ですが、どう運営していくかというところも一つ大事なところであると思います。軌道に乗ってくると地域も活性化してくるし、学校も様々な教育活動ができるようになるので、非常に助かる。持続可能なコミュニティ・スクールの在り方は必要であり、今後の重要な議論の点となるのではないでしょうか。

Aチーム：我々はコミュニティ・スクールの説明を色々と聞いたので、それは導入した方がいいよねと思うようになりましたが、そもそも、コミュニティ・スクールについての言葉自体が知られていません。まずは理解してもらうことが第一ではないかと思います。

そして、地域が協力して、学校も協力して活動という形はよくわかりますが、推進力という言葉でも話がありましたが、それだけの余力が今あるのか。みなさんが日々の生活で忙しい中、さらに学校のことを付け加えていくのは難しいところがあるのではないかと思います。関わっていくという素地の部分に大変な工夫がいるだろうと思います。その中で、こういったことをしてはどうかというものに、有償にするとか、会社の方に裁判員制度のように休みにするとかがあればよい、関わりやすくなるといった意見がありました。

あと、地域人材の話にもなりましたが、新興で開発され、色々なところから来ている方が集まっている地域は、住んでいる人同士、どういう力をもっている方がいるのかわかっていません。ただし、色々な力をもっている方はいらっしゃるはずですし、協力したい、協力できるという方もいる。そういうところを発掘していく工夫や仕組みがいたると思います。

それから、コミュニティ・スクールを単独でやっていくのはしんどいのではないかということで、例えばまちづくり協議会といった組織と一緒にやっていく、また社会教育の方とやっていく、色んな組織と連携して、こういう仕組みづくりができればいいなとなりました。

会 長：ありがとうございました。ほかに全般について何かありましたら、お願いします。まだ2回目ですので、これからもう少し審議の積み重ねが必要となります。よろしくお願いします。

●その他

《事務局から第3回審議会及び研修の予定について連絡》

(以上)